

# ミステリ読書案内

2022. 6. 25 発行元

第369号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## はやみねかある「怪盗クイーン」シリーズ

5月に『怪盗クイーン』シリーズの最新作『楽園の名画を追え』が出た。はやみね作品としては『都会のトム&ソーヤ』シリーズとともに現在の柱になっているもの。「はやみねワールド」が楽しめる作品と言える。

### 「怪盗クイーン」シリーズとは？

講談社の青い鳥文庫から出ているシリーズ。図書館では児童書の分類になっていることが多い。

「怪盗クイーン」は飛行船トルバドゥールに乗って世界のあらゆるところに出没する大怪盗。毎回目標とするものに肉迫する素早さを持ち合わせているのだが、普段の何もない時の生活は気の抜けた言動で、読者を楽しませてくれる。

クイーンの仲間は仕事上のパートナーのジョーカーと人工知能のRD。対する追っ手側は国際刑事警察機構の探偵卿グループ。また、目標物を狙うライバルとしてクイーンの師匠の「皇帝」とヤуз組、そして各巻ごとに出てくる各種の新手グループがある。

「本格謎解き」というよりはハラハラドキドキの「活劇」を楽しむストーリーと言えるだろう。

### 最新作「楽園の名画を追え」

最新刊の『楽園の名画を追え』は、タヒチが舞台となる。「タヒチミステリーツアー」に参加することになったクイーンは「ゴーギャンの遺

作」を探すイベントに挑むことになる。探偵卿のヴォルフはなんと地下組織「ホテルベルリン」の最高幹部・ローテと結婚することになり、新婚旅行先としてタヒチにやってくる。二人にくっついて来るのはお目付け役のルイーザ。実力の持ち主。一方、「皇帝組」が加わってくるのは定番の流れ。そして今回はイタリア・マフィア「メッゾジョルノ」が対抗馬になる。これでもいつもよりは競う相手は少ない方だ。

### ゴーギャンとゴッホ

この作品の良いところはゴーギャンとゴッホが出てくるところ。いつもだと目当ての「お宝」は宝石や金貨で現実のものとは直結していないものばかり。今回は、南太平洋の楽園・タヒチでゴーギャンが最後に制作した作品。実在の人物であり、たくさんの絵画が残されている有名画家なので、これを機会に美術に興味を持ってくれたらと思う。

本書の中でも触れられているが、ゴーギャンとゴッホは一時期共同で暮らしたことがあり、そのいきさつなどについての解説もある。結局二人は仲たがいをするのだけれど、

### 「怪盗クイーン」シリーズ

1. 怪盗クイーンからの予告状
2. 怪盗クイーンはサーカスがお好き
3. 怪盗クイーンの優雅な休暇
4. 怪盗クイーンと魔窟王の対決
5. オリент急行とパンドラの匣
6. 怪盗クイーン、仮面舞踏会にて
7. 怪盗クイーンに月の砂漠を
8. 怪盗クイーン、かぐや姫は夢を見る
9. 怪盗クイーンと悪魔の錬金術師
10. 怪盗クイーンと魔界の陰陽師
11. 怪盗クイーン ブラッククイーンは微笑まない
12. 怪盗クイーン ケニアの大地に立つ
13. 怪盗クイーン ニースの休日
14. 怪盗クイーン モナコの決戦
15. 怪盗クイーン 煉獄金貨と失われた城
16. 怪盗クイーン 楽園の名画を追え  
アンソロジーに収録された短編2編と『ファンブック』を除く

二人の絵に求めるものの違いなどについても解釈を加えている。勉強になると言えばそう言える。

### トルバドゥールは素晴らしい！

毎回思うのだが、飛行船トルバドゥールは素晴らしい。指示を出すだけで世界のどこへでも連れて行ってくれる。地上への行ったり来たりも自由だ。食事も含めて何でも取り揃えているようで、空想の中だけでも「こんなのに乗りたいなあ！」と羨ましく思ってしまう。

はやみねかあるは「本格謎解き」路線からは離れつつある。『怪盗クイーン』と『トム&ソーヤ』でいいので次の新作をお願いします。

### 楠木誠一郎「坊ちゃんは名探偵！」

2001年講談社青い鳥文庫。『タイムスリップ探偵団』シリーズの第一作になる。このシリーズはファーストシーズンが8冊、セカンドシーズンが21冊、サードシーズンが4冊出ていて、青い鳥文庫の目玉商品になっている。(ファーストシーズンは、本書の後、水戸黄門、紫式部と清少納言、織田信長、安倍晴明、ねずみ小僧次郎吉、ヒミコ、源義経と続いていく) 探偵団は小学六年生の氷室拓哉、遠山香里、堀田亮平の三人で、本書においては上野の歴史風俗博物館内の写真館で写真を撮ってもらうことでタイムスリップすることになる。時代は明治十二年。そこで三人は同い年の夏目金之助(漱石)少年と出会い、樋口なつ(一葉)誘拐事件の捜査に加わることになる。メインになっているのは上野公園の「立体迷路」とそれに関連した「暗号」。この「暗号」はそれなりに複雑。段階を踏んでの分析作業が詳しい。森林太郎(鴎外)青年も登場して暗号解読を手伝ってくれる。捜査側が神津警部と松下刑事というのも笑わせる。楠木誠一郎は、このシリーズの他に歴史ミステリを数多く手掛けており、そちらを読んでみるのも面白いと思う。